



12月号
(第407号)

武庫川女子大学
附属中学校・高等学校
総務部



まず身近なところから始めよう

教頭 宮下 良治

「人の命は地球より重い」これは1977年、バンングラデシュで起きた日航機ハイジャック事件の際、当時の総理大臣福田赳夫氏によって発せられた言葉です。ハイジャックした日本赤軍の5人は、乗客・乗員151人の人質と引き替えに、日本国内の獄中における過激派活動家9人の釈放・出国と身代金600万ドルを要求したのです。福田元総理は「人の命は地球より重い」という言葉を報道陣に残し、犯人の要求を受け入れる苦渋の決断をします。

私は当時18歳、今ではこの報道は断片的にしか覚えていませんが、この言葉だけは強烈に頭に残っています。ロシアのウクライナ侵攻が始まったとき、真っ先に思ったのがこの言葉でした。当初は短期終結の話もありましたが、戦争は終わるどころか泥沼化し、双方に多大な死傷者を出しながらまだ続いています。「地球より...」どころか、人命が紙切れより軽いものとして扱われていると思います。私はこのところずっと考えています。「もし自分の周りで戦争が始まったらどうするの?」「もし自分が徴兵されたら行くの? 逃げるの?」「年齢的にあり得ない」という卑近なことから、「この戦争の大義とは?」「民主主義・共産主義って何なの?」「国って何なの?」「人間って何なの?」という哲学的なことまで。

英語の参考書『英語長文問題精講』(旺文社)の177ページに、*“... For after the first exchange of missiles, the ashes of communism and the ashes of capitalism will be indistinguishable.”* (J. K. Galbraith: *The Age of Uncertainty*) とあります。日本語にすると、「...なぜならばミサイルの最初の応酬が行われたあとでは、共産主義の廃墟も資本主義の廃墟も区別できないであろうから」です。もし核の応酬が起きてしまえば、人類にとって取り返しのつかない過ちを犯すことになりま。ashは「灰」です。地球上のどの場所でもそんな状態になってしまわないことを切に祈るばかりです。

最後に朝日新聞の『折々のことば』から、「自分が日々接する人たちと、まず平和な関係を築くこと」(隠岐―須賀麻衣の恩師)「高校時代、世界平和に貢献するにはどんな仕事に就けばいいか恩師に訊ねた。その時の返答だ。政治思想家になって、民主主義について同じように考えた。つねに正しい政治判断を下しうる人はいない。だから、民主主義的な決定には互いに考えを吟味しあえる他者が必要だと。それも日々の暮らしのただ中に」

今年もクリスマス点灯式

十一月二十八日(月)に本校セミナー棟で、クリスマス点灯式として、オーケストラ部とコーラス部によるコンサートを行いました。これは二十年以上続くイベントで、在校生や保護者の方方だけでなく、卒業生の方々にも慣れ親しまれています。

当日は在校生の保護者等の方方だけでなく、附属幼稚園の園児・園児の弟妹の二十名、そして保護者

の方々も集まりました。コンサートの始まる前に、本校図書館棟A V1教室でクリスマスミュージックを鑑賞しました。その後、園児たちは武庫川サンタクロースからすてきなプレゼントを受け取り、わくわくする気持ち



ちが止まらない様子でした。そして、クリスマスコンサートのお場へ行くと、附属幼稚園の方々のための特等席が用意されており、園児たちは大喜びでコンサートを鑑賞していました。



常任委員会 次の世代へバトンパスを

十一月九日(水)に常任委員会引継式を行いました。思い返すと高校三年生の高校生活の始まりは緊急事態宣言の真っ只中でした。従来の入学式を迎えることはできず、その後の学校行事についても「縮小版」しか知らないなかで、最高学年となり、さまざまな場面でも最上級生として活躍してきました。そんな高校三年生も卒業まであと三ヶ月となりました。



ここでは、令和四年度・令和五年度の常任委員会の紹介と、令和四年度常任委員会代表生徒の想いを紹介します。

令和四年度 常任委員会

- 常任委員会代表 岡本 茜
- 常任委員会副代表 兼 全校正副委員長会副代表 伊熊 歩美
- 常任委員会書記 兼 全校正副委員長会代表 田中 頌子
- 常任委員会書記 兼 全校風紀委員会副代表 兼崎日菜乃
- 常任委員会書記 兼 全校庶務委員会副代表 細谷 也珠
- 全校風紀委員会代表 久野 美希
- 全校庶務委員会代表 宇川 恵里
- 全校美化委員会代表 大島 真弥
- 全校保健委員会代表 岡村 美玖
- 全校図書情報委員会代表 平岡ひなの

令和五年度 常任委員会

- 常任委員会代表 元浦 綺花
- 常任委員会副代表 兼 全校正副委員長会副代表 小木曾詩織
- 常任委員会書記 兼 全校正副委員長会代表 山本 有紗
- 全校風紀委員会代表 永野 紗彩
- 全校庶務委員会代表 米田 有希
- 全校美化委員会代表 松本 尚子
- 全校保健委員会代表 小方 桃菜
- 全校図書情報委員会代表 中村 結衣

常任委員会を終えて

常任委員会 代表 高校三年 岡本茜

昨年度の高校三年生の先輩方から常任委員会を引き継ぎ、あつという間に一年が経ちました。今年度は「結実(ゆみ)」を学校目標として掲げ、学年の垣根を超えて繋がりを持つことができる学校を目指して活動してきました。五月の武庫川フェスティバルは三年ぶりに有観客で開催することができ、活気や笑顔が溢れる二日間を作り上げることができました。また八月にはリーダートレーニングを開催し、一年を通して新型コロナウイルスの影響は少なからずありましたが、通常の活動に少しずつ近づくことができましたのではないかと思います。活動中はうまくいかないことがたくさんあり、何度も心が折れかけましたが、共に活動してきた常任委員会のメンバーや周りの友達、先生方などたくさんの方々の支えや励ましの言葉により、活動をやり遂げることができました。私たちの活動にご協力いただいたすべての方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

今後は高校二年生の常任委員の皆さんが中心となって活動していきます。武庫川の長い伝統を引き継ぎながら、よりすてきな学校になることを楽しみにしています。これからの活動を応援しています。

高校二年研修旅行へ行ってきました

中井 清香

私たち高校二年生は『学業両道』をスローガンに、三泊四日で九州方面へ研修旅行に行ってきました。一日目は太宰府天満宮に参拝しました。学業成就のお守りを皆で買い、もうすぐやってくる期末考査のことを願いました。二日目は原爆資料館で戦争について学び、平和祈念像の前で、学年全員で平和を守り続けることを誓いました。その後はコースごとに分かれ、私は有田焼のコースに参加しました。難しかったですが、上手にできたと思います。三日目は、長崎市内班別自由研修でした。いつもはスマートフォンを使っていますが、この日は実際の地図を見て回るようになっており、中々難しかったです。そして夜にはハウステンポスの宿泊施設へ。美しいイルミネーションに浮かび上がる建物がとても印象的でした。四日目はハウステンポスでの自由行動で、最後に皆と一緒に思いっきり楽しむことができました。研修旅行を通して、学ぶことがたくさんあり、また一つ成長できたと思います。最高の研修旅行でした。



バトントワリング部 全国大会金賞

十二月十日(土)に幕張メッセで行われた「第五十回バトントワリング全国大会」に高校チームが出場し、金賞を受賞しました。



本チームが全国大会に出場するのは、五年連続三十六回目になります。関西大会で全国大会出場への切符を手に入れてから全国大会当日まで、技術や精神力の向上だけでなく、健康管理にも気を遣う日が続ききました。どんな環境の中でも、きちんと結果を残せるのが本校のバトントワリング部のパワーです。

甲子園ボウル ハーフタイムショーに出演!

十二月十八日(日)に阪神甲子園球場で行われた「三菱電機杯 第77回毎日甲子園ボウル全日本大学アメリカンフットボール選手権」のハーフタイムショーに、本校のマーチングバンド部とバトントワリング部が出演しました。今回で十三回目の出演となり、二つの部活動にとっては恒例行事となりました。今年の大会のテーマとして「甲子園ボウル×SDGs 未来に紡ぐゲームプランプロジェクト」が掲げられており、大会運営の裏側では、学生の方々がさまざまな活動に取り組む姿も見られました。



入試に関するご案内

○中学入試

出願期間 全ての入試方式ともWEBで出願
令和四年十二月十六日(金) 午前九時～
令和五年 一月十二日(木) 十二時

【自己推薦入試・A方式】

令和五年一月十四日(土) 九時～
【B方式】令和五年一月十四日(土) 十六時三十分～

【プログラミング入試】

令和五年一月十五日(日) 十三時三十分～
【C方式】令和五年一月十五日(日) 十七時～
【D方式】令和五年一月十六日(月) 九時～

○高校入試

【前期A/B/C方式】

出願期間
(窓口)令和五年一月二十三日(月)～二月三日(金)
※土日を除く、九時～十六時受付
(郵送)令和五年一月二十三日(月)～二月三日(金)
※期間内必着

・入学考査日

令和五年二月十日(金) 八時三十分～
(後期D方式【二・五次入試】)

・出願期間

(窓口)令和五年二月十三日(月)～十六日(木)
※九時～十六時受付
(郵送)令和五年二月十三日(月)～十六日(木)
※期間内必着

・入学考査日

令和五年二月十七日(金) 八時三十分～
※詳細は、ホームページをご覧ください。
本校事務室、入試相談室まで。
TEL(代)〇七九八・四七二・六四三六

☆様々な分野での活躍☆

第五十回兵庫県私立学校読書感想文コンクール
「高等学校の部」

- 「入選」高二 坂口 愛実「老いと死の見方」
「老いる勇氣」岸見 一郎著
「佳作」高二 早瀬 月琴「その扉をたたく音」
「その扉をたたく音」瀬尾まいこ著
「佳作」高一 井上 心晴「宗教の信仰」
「星の子」今村 夏子著

「中学校の部」

- 「入選」中三 小谷ちひろ「その先の音」
「その扉をたたく音」瀬尾まいこ著
「入選」中三 小竹 咲喜「私らしく生きる」
「まちがたったっていいじゃないか」森毅著
「佳作」中三 小倉 葵「マザー・テレサ あふれる愛」を読んで
「マザー・テレサ あふれる愛」沖守 弘著

○空手道部

第32回兵庫県スポーツ少年団総合競技大会空手道競技
12/11(兵庫県立武道館)

3位 団体形競技 中学生の部

- 新井 圭愛(中2) 杉本桜永遠(中2)
木原 心優(中2)
個人組手競技 中学2年生女子の部
杉本桜永遠(中2)

○ソフトボール部

第70回兵庫県高等学校女子選抜ソフトボール大会
11/19・20(相生スポーツセンター)
3位

○器械体操部

令和4年度兵庫県高等学校体操競技新人大会
11/19・20(ウイंक体育館)
団体 2位

- 佐々木美和(高2) 三嶋 心美(高2)
木下 凜子(高1) 西岡 亜季(高1)

○放送部

第46回兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部 決勝
11/23(神戸松蔭女子学院大学)
アナウンス小部 銅賞 納村真理子(高2)
朗読小部門 金賞 三好 紅葉(高2)
DJ小部門 銀賞 「MBCライブオンエア」
テレビ番組小部門(ドキュメント) 銅賞
「学び舎のそばに」本校付近が戦時中に飛行場
だったことについて

・令和4年度朗読コンクール

11/27(兵庫県立こどもの館)

高校生の部

- NHK神戸放送局賞 吉岡 千恵(高3)
朝日新聞社賞 武村 紗希(高2)
朝日新聞社賞 宮本 リリ(中3)

中学生の部

朝日新聞社賞

1 月 行 事 予 定

Table with 2 columns: 日曜 (Day/Week) and 行事予定 (Event Schedule). Rows include holidays, exam dates, and school activities for January.